

住みよいたけし

2020年8月16日発行

事務所 武石地域自治センター内

TEL:0268-85-3667

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



昔の蓄音機の音を楽しむ皆さん



武石の交流の場

「つなぐ家」が オープン

武石風土つなぎ隊(柳沢裕子隊長)が、武石地域の住民交流の場としたいとして整備してきた「つなぐ家」が7月22日(水)、JA武石店前の旧小林商店の店舗を改装してオープンしました。

つなぎ隊では、昔の「武石銀座」の賑わいを取り戻し、住民が気軽に立ち寄れる場所を作りたいとの思いを結集し、つなぐ家を実現しました。

4連休となった26日までの間、地元農産物や手作り小物、駄菓子、木工品などが展示販売され、住民の皆さんは買い物やおしゃべりを楽しんでいました。また、長野大生数人が毎日ボランティアで運営をお手伝いしていました。当面は、



地元産の農産物の販売

道向かいのジェイエイひだまり武石で開かれる「武石の縁が輪」に合わせ毎月第2・第4の木曜日～土曜日に開所する予定とのことです。

武石でも高齢化が進み「買い物難民」という言葉も聞かれ、住民同士のかかわりが薄れている折、農産物や食料品、生活用品などを買えたり住民が気軽に交流できる場となればいいですね。

熊沢峠の調査

6月6日(土) ふれあい交流部会

住みよい武石をつくる会ふれあい交流部会は「武石・未来・つながるプロジェクト」と協働で熊沢峠トレッキングを計画し30人を超える参加申し込みがありましたが、新型コロナのため中止せざるを得ませんでした。

このため部会では来年実施の参考にしたいと、3密を避けるため現地集合・解散で、自然観察指導員などとともに登山路を調査しました。武石小学校でも学校登山として利用できないか調査したいとして、先生、PTA役員も同行しました。丸子テレビの「まるてれが行く」の取材も入り、この映像はNHKの「ぐるっとふるさと信越」でも放映されました。

なお熊沢古道について、4月のつくる会広報で紹介したところ、鳥屋の奥村森代さんから次のような要旨のお手紙をいただきました。

・私が一番うれしかったのは、熊沢峠が整備され、イベントが開かれるという朗報を目にしたことです。戦時中小学生だった私は、山の植林や薪の背負い出し、開墾などいろいろな勤労奉仕をしました。ある時、河原を開墾して作ったサツマイモと雨降りに編んだ藁草履をリュックに詰め、東京から霊泉寺に疎開している同世代の子供たちに、熊沢峠を越えて慰問に行った思い出があります。熊沢峠が再び通れるように整備を計画している皆さんに感謝の思いです・・・

たけし新緑めぐりウォーキング

7月19日(日) 健康・福祉・体育部会



当初6月中旬に計画した、つくる会主催による「たけし新緑めぐりウォーキング」が、武石観光センターを発着点に開催しました。

前日までの雨雲を一掃するような好天に恵まれ、久しぶりに30度超えの暑さの中、キャンプ場、お仙が淵、巢栗渓谷などを巡り、竜ヶ沢ダムまでの約2.5キロ、マイナスイオンを体感出来たウォーキングでした。

武石に居住していても、初めて見る光景に「一度は来てみたかった。参加して良かった」との声も聞かれました。また武石地域外から参加の方は、40年ほど前とは景色が変わり記憶の中の場所とは違った様相に驚いていました。

台風などの災害が所も2～3年後に復旧することによって、その際は会として再度ウォーキングの計画をする予定です。

サテライト市長室

7月21日(火)

市長が一日武石地域で勤務するサテライト市長が開かれ、土屋市長は早朝から武石地域のせんざい畑の会、生活改善グループ等との懇談、被災した番所が原スキー場や武石総合センター建設現場の視察などを行いました。午後3時半過ぎには武石猟友会役員4人との懇談が行われました。

猟友会からは、昨年は681頭の有害獣駆除を行ったこと、有害獣の埋設やドックフードへの利用の難しさ、深刻な猟友会員減の状況などについて市長に説明・要望があり、市長は「有害獣の駆除・処理など大切な仕事を担ってもらっており感謝したい。お話しいただいたことを整理し、市としても対応を検討したい」とコメントがありました。



たけし 歴史さんぽ道

会下山は、 若いお坊さんたちの修行の山？

郷土史家 見玉卓文



半台山から会下山、そして保代と余里の谷(沖小山から)

第1回に続いて、地名から武石の歴史を探ってみましょう。

沖の県道から依田窪南部中学校に下りていく坂道付近の字名は「さいかちざか」です。『武石村誌』付録の「小字地図」では、「棟坂」と書かれています。棟は「おうち」と読み、落葉高木のセンダンの古名で、サイカチの漢字は「皂」・「梶」です。

センダンは暖かい海辺の木で、建築や器具の材料になりますが、古代から中世では、『平家物語』に「大路を渡して左の獄門のおうちの木にぞかけたる」とあるように、さらし首をかける木にも使われました。一方、サイカチは山野や川辺に生えるマメ科のトゲのある木で、果実はサポニンを含み洗剤や利尿の漢方薬にもなるそうです。江戸時代の検地帳に平仮名で「さいかち坂」とあるので、「さいかち」の音が正しいと思います。昔サイカチが植えられていたのでしょうか？上田小泉地域でも珍しい地名です。

「棟坂」には「左すわ 右まつもと」と記された道標がありますね。昔の道はここで諏訪と松本方面に分かれました。ここから東の水田一帯を「五日町」といいます。鎌倉時代末ころ、5日と15日と25日に「市」が開かれことにちなむ地名とされています。子檀嶺神社はかつて五日町明神としてここにあり、藪合の祖先の方々が住んでいましたが、天文4年(1535)の洪水で大きな被害を受け、人々は現在の藪合の地に移転したとされています。

明治14年に編さんされた『下武石村誌』には、信広寺さんは初め「五日町西南の山端に創建し、臨済宗洞昌山心光寺」といい、のちに衰退して住職は「小沢根の善能寺へ移り同居」したとあります。五日町の西南の字名は「半台」で、江戸時代の文書には「飯代」とも書かれています。

「はんたい」には何か意味があるのでしょうか。

江戸時代の百科事典である『和漢三才図会』によれば、「食床(はんたい)は今にいう飯台のたぐい、学寮衆僧並びおり飯を吃(きつ)するの床」とあります。簡単に言えば「修行する坊さんたちの食卓」です。半台の西南は「滝ノ沢」を挟んで「会下山」、その南は「六六」そして「保代」、対岸は「石経」、「会下山」と武石川に挟まれて台地は「善能寺」、「棟坂」の隣は「江戸窄」。これらの地名は、みな仏教の気配がします。

まず「会下山」は「えかやま」と読みますが、「会下(えげ、えか)」は、師の僧について学問する若いお坊さんのことを言います。「保代」は菩提を弔うの「ぼだい」で、葬送の地の印象があります。「六六」は面白い地名ですね。仏教では、人々が善悪の業によりおもむき住む地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの迷界を六道と言うように、「六」は仏教に関係がありそうです。「善能寺」は、妙見寺と信広寺の元あった場所と伝承されています。

仏教の信仰のしかたに写経がありますね。本来の写経は紙または布にするものですが、経文を永く残すために小石に書き写して、これを土に埋める「石経」の習俗がありました。「石経」はその経石を埋めた塚があった所からついた地名です。

「江戸窄」は「棟坂」に向かって台地が窄(すぼ)まる所にあります。「えど」はおそらく極楽浄土を願って汚れたこの世を離れるという「厭離穢土」の「穢土」ではないかと思われます。昔何かの仏教施設があったのかもしれませんが。

『武石村誌』の編さんにより、鎌倉から室町時代の武石の支配者が千葉氏から武田流大井氏と研究され(双方とも武石氏を名乗ります)、長野県宝の大門仏岩巖頭の宝篋印塔ほうきょういんとうの建立者も、武石千葉氏ゆかりの人物と考究されましたが、村の様子や暮らしはほとんど分かっていません。地名は何かの手がかりを与えてくれそうです。

武石を盛り上げる
人々グループ紹介

武石の人々 団体



(株)小山林産 代表取締役

ゆきひろ

小山 教洋さん

今年4月、
上田市

中丸子の旧カネボウ跡地のヒマラヤスギ4本が危険防止の為に伐採されました。この伐採を手掛けたのが(株)小山林

産で、作業者が樹上に登り、木の先端から何回かに分けて切り下していく特殊伐採の工法により行われました。特殊伐採は、寺社や住宅地など機械が入りにくい場所で高木を伐採する難度が高い特殊技術です。小山林産は、県内外で年間1500本以上の特殊伐採を行っており、長野県で一番の実績との事です。

小山さんは、高校の頃から実家の林業を手伝い、その大変さを知って、林業が一番やりたくない仕事だと感じていたとのこと。しかし、高校卒業後カナダに4年間留学し、雄大な自然の中で様々な道具を使った進んだ林業や特殊伐採を知りました。「この技術や道具を使えば、日本の林業も格好いい仕事に変わるのでは?」との思いが、帰国後林業に携わり、特殊伐採の会社設立のきっかけとなりました。

2009年に会社設立、武石や近隣出身の従業員7名で、特殊伐採の事業を柱に、森林整備、リフォーム、薪の販売等幅広い事業を展開しています。今年で11年目となりますが、「当初は資金繰りなど苦労が多かったが、現在は安定経営が出来ている。何よりも素晴らしい仲間と出会い、良い仕事出来るのが嬉しい」と笑顔で話していました。また、小中学生を対象とした森林体験授業の実施や林業体験のイベント開催など、将来の林業の担い手を育成する活動も積極的に行っています。「小学生100人の内1人でも会社に就職をしてくれればとって10年間続けて来た。そろそろこれまでの事が実を結ぶ時期」と期待を寄せていました。

現在武石地域では、乱伐や手の入らない山が増えており、今後災害を誘発し山が崩壊する可能性が大きいと問題となっています。「これから3~5年後に向けて山作りをし、武石の山を守り、管理をしていきたい」と今後の抱負を話してくれました。

「林業に興味のある人は会社へ来てほしい。体験イベントなども開催しているので、ぜひ参加して下さい」とのことでした。詳しい情報は、下記ホームページで。

小山林産の詳しい情報は...

小山林産

検索

<http://www.koyamarinsan.co.jp>

第8期

武石地域協議会がスタート

7月15日、第8期武石地域協議会の第1回目の会議が開催されました。本来4月に開催されるのですが、新型コロナの関係で3か月ほど遅い開催となりました。席上互選により会長に池内俊郎氏(再)、副会長には金子るり子氏が選出されました。

地域協議会委員は市長より委嘱され(任期2年)、市長から諮問される事項の審議、市への提言、住民・行政の協働によるまちづくりの調査・研究等を行います。また、協議会委員は住みよい武石をつくる会の委員を兼ね、協働して地域づくりに取り組むこととなります。

今期の協議会では特に①雲渓荘の運営、②武石公園化構想の実施、③武石地域の公共交通等が重要課題となっています。



池内会長



金子副会長